

平成26年度環境保全リーダー育成講座

A グループ研究発表レジュメ

1. はじめに

①グループ員の紹介（7名）

リーダー：菅原 顯一	発表者：大山 幸美	連絡責任者：日野 榮子
谷口 藤夫	千葉 寿郎	日野 修吾
道田 公作		

②テーマ「石巻地方の動植物の生態調査」

A グループがこのテーマを選定した理由…

地球環境（問題）を知る上で、動植物の生態系を観察することが特に大事（基本）だという観点から、このテーマを選びました

2. 第3回講座「楽しい自然観察の仕方」を中心に環境問題を考察

講師：中間温帯植物研究所代表 佐々木豊先生の説明を受けながら牧山、長浜の松林を観察して感じたこと（思ったこと）…

①市民の森として親しまれている牧山ですが、実際に自分たちの脚で原生林のなかを歩いてみると

ちなみに…

自然林	何も手を加えない林
半自然林	人間が手をかけた所
人工林	伐採したところに植林した林

高木層：黒ブナ、イヌブナ、モミなど	低木層：スズタケ、アオキなど
草本層：ハウチカエデ、カヤ、クロモミジ、イヌツゲなど	

※ 森林浴のすばらしさを体感できた…空気がおいしい

※ 木の高さや太さ（直径）を観察員全員の目測（計測）するというアバウト（自然的）さに驚いた

※ 歌にでてくる「二輪草」、殺人事件に使われた猛毒を有するトリカブトを観て…

②長浜の松林（半自然林）、後はい湿地を観察して思ったこと…

砂浜の後ろに湿地（自然草原）ができる一北上川から砂を運んで海岸の砂浜ができる…しかし最近ダムを造ることによって砂を運ばなくなった

※ 白い砂浜、打ち寄せる波音、長い海岸線、その後ろにある松林、われわれ日本人の自然観が培われてきた大事な景観

※ 悠久にながれる「時間」を大局的（大きく、長く）にとらえることが大事

※ 防波堤の隅っこには「浜昼顔」が何ごともなかったように静かに咲いていました。この海岸にいつの日か自然的なかたちでこうした浜昼顔が生息する日が本来の復興のときになるのでは、と感慨深げに語ってくれた佐々木先生の言葉が印象的でした。

3. 発展（補足）— 森林の持っている多面的な働き

①生命の根幹：多くの生物を養い、その生物は植物連鎖によって支え合っている

②土壌造り：落ち葉や生物の糞、死骸が豊かな土をつくり、木々の根が土砂崩れを

A グループ研究発表レジュメ  
防いでいる

③樹木と豊かな土が天然のダム働きをし、雨水を貯え、ミネラルを含んだ有益な養分を流し出している

☆そうした大切な森林がいま減少し続けている（森林破壊）

その原因は…

森林の消費大国はどこ…？

☆では、わたしたちにできることは…4R（やめる/減らす/再利用/リサイクル）  
過剰包装を断る、買い物袋・マイバッグをもっていく、再生紙、リサイクル品の購入、マイ箸（割りばしの浪費）を持つ、紙コップの使い捨てを減らす、不要なDMは送り返す（未開封のまま『受け取り拒絶』と朱書きしてポストに投函）など

4. おわりに ―自然との共生・協調こそが大事―

わたしたち日本人は農耕民族であり、その生活が自然に左右されるのがあたりまえでした。したがってわたしたちの自然観は自然を敬うものであり、太陽や月、水、川、山、木々などすべてに神が宿るといふ精神性を重んじる民族だったのです。一方、欧米人は狩猟民族であり、どちらかと言えば自然を支配するという自然観があると考えられています。

近年の国土開発（乱開発）は自然を支配する、コントロールするという（欧米人の自然観）考えが中心となり、簡単に多くの河川や海岸が人工的に変えられてきました。

わたしたち日本人の伝統的な生活習慣はすでに欧米化し、特に自然とのつながりを大事にする観念が急速に失われているといえます。自然に親しむという風習は多少残っていても自然に対する畏敬の念が希薄になっているのは確かではないでしょうか。

昭和40年代からはじまった公害問題は日本が農業国から重化学工業路線を走り始めてからのことでした。その結果、わが国は戦後の廃きょと化した瓦礫の山から歩みはじめ、わずかな期間で世界でも類を見ない経済大国（資本主義経済圏で第2位のGDP）まで昇りつめました。

減反（農地の荒廃）政策がはじまったのもこの40年代後半頃からでした。

いま、わたしたちを取り巻く環境問題は数えきれません。

ゴミ問題、地球温暖化、オゾン層破壊（酸性雨）、森林破壊、人口爆発と貧困、生物種の絶滅、食料問題、エネルギー問題（原発問題）、水資源の危機、砂漠化等等。

まさに地球の悲鳴が聞こえてきそうです。

自然界にとって、「いい天気も、悪い天気」もありません。

わたしたち人間の主観でそう言っているだけのことです。

気圧が下がれば雨になり、さらに気温が低くなれば雪や氷になる。海がしけ（荒れ）るのも、台風、つつ巻や地震、それに伴う津波もすべて自然現象の一つに過ぎません。

日本は世界的にも緑の多い国（緑被率69%：先進国第2位）で海に囲まれた島国です。

その美しい海や砂浜、きれいな海岸などの景観は、ときに歌の詩の題材や文学小説の舞台などわたしたち日本人にとってきわめて身近なものであり、こころ豊かにしてくれています。

こんな所に高さ20メートル近い防潮堤がほんとうに必要なのでしょうか。

震災からの復興も、ただ単に建造物を造るのではなく自然を敬い、自然に感謝し行うべきものと思います。

さまざまな地球環境問題が顕在化しているいまこそ「自然との共生・協調」がもっとも大事な課題だと思い、この講座のまとめとします。